

## 二次保健医療圏の見直し検討に関するとりまとめ（案）

令和 5 年 3 月 日

広島県医療審議会保健医療計画部会

## 1 趣旨

次期保健医療計画（第 8 次）の二次保健医療圏については、広島県医療審議会（令和 4 年 7 月 11 日）において、今年度中に検討を行い、結論を得ることとされた。

当部会では、2 回にわたり会議を開催し、広島県地域保健対策協議会（以下「県地対協」という。）や各圏域の地域保健対策協議会（以下「圏域地対協」という。）等の協力を得ながら、具体の検討を行った。

## 2 検討結果

次期保健医療計画の二次保健医療圏については、次の理由により、現行の二次保健医療圏が妥当であること。

- ・現行の二次保健医療圏（7 圏域）について、国の見直し基準であるいわゆる「トリプル 20 基準（※）」に該当する圏域はなく、流入・流出率についても前回計画策定時から大きな変化はない。
- ・基幹病院の受療動向については、圏域内患者が大半を占めており、アクセスでは、すべての圏域において自圏域の基幹病院までの 60 分以内カバー率（有料道路使用）が 95%以上となっている。
- ・全ての圏域地対協においても、現行の二次保健医療圏が妥当との結論が示されたこと。

などである。

ただし、将来的な人口動態等を踏まえ、第 9 次広島県保健医療計画策定に向けては、適切な時期に二次保健医療圏の見直しを検討すること。

※人口 20 万人未満、入院の流入 20%未満、流出 20%以上の圏域は見直しを検討

## 3 検討の経緯

○ 第 1 回部会：令和 4 年 7 月 29 日

- ・医療法の規定等から、二次保健医療圏の設定の目的等について確認
- ・国の考え方だけでなく、アクセス、5 疾病・5 事業や診療科別の受療動向、市町別といった様々な観点を加え、可能な限り詳細なデータをもとにした検討を行う必要があることから、県地対協での検討を求めること。

○ 県地対協「保健医療基本問題検討委員会」：令和 4 年 9 月 1 日

- ・当該委員会では、「広島県医療・保健・介護情報総合分析システム」にあるレセプトを活用し、隣接する圏域（市町）への患者流出や拠点病院の圏域内居住患者の受療動向などが分析された。

- ・また、これまでの見直し検討などの意見を踏まえた4つのパターンを例として、次の2つの見直しの視点と、患者の動向（流入率、流出率）などのシミュレーションが示された。【3・4 ページ参照】

(見直しの視点)

- ・ 二次保健医療圏は、一般病床・療養病床での一般の入院医療を提供する地域的な単位であることから、一般の入院医療の需要について、なるべく身近な地域で対応できる範囲を設定する。
- ・ 人口や医療資源の地理的分布、拠点病院ごとの医療機能は同じではないことから、各圏域の均一性を保つことには限界があるが、医療機能がある程度集中している拠点病院において医療需要をカバーできる範囲で二次保健医療圏を設定する必要がある。

- ・ 当該作成資料をもとに各圏域地对協に対して、検討及び意見を求めることとした。

○ 県地对協「保健医療基本問題検討委員会」：令和4年12月21日

- ・ 圏域からの意見を踏まえて議論を行った。
- ・ 現行の7医療圏が妥当・適当とする意見が多く、当該委員会としても次期保健医療計画における二次保健医療圏は現行の医療圏が妥当とする結論を得た。

【保健医療基本問題検討委員会意見】

次期広島県保健医療計画については、全ての圏域において、現行の二次保健医療圏が妥当との結論が示されたところであり、本委員会としても、現行の二次保健医療圏とすることが妥当である。

なお、将来的な人口動態等を踏まえ、第9次広島県保健医療計画策定に向けては、適切な時期に二次保健医療圏の見直しを検討する。

○ 第2回部会：令和5年1月19日

圏域からの意見（5 ページ）及び県地对協からの意見を踏まえた二次保健医療圏の見直し検討に関する議論及び取りまとめを行った。

# 二次保健医療圏のシミュレーション

第1回広島県地域保健対策協議会  
保健医療基本問題検討委員会

資料  
1

令和4年9月1日

○ 二次保健医療圏に対する多様な意見を踏まえ, 例として4パターン<sup>①</sup>のシミュレーションを行った。

## パターン① (現行)

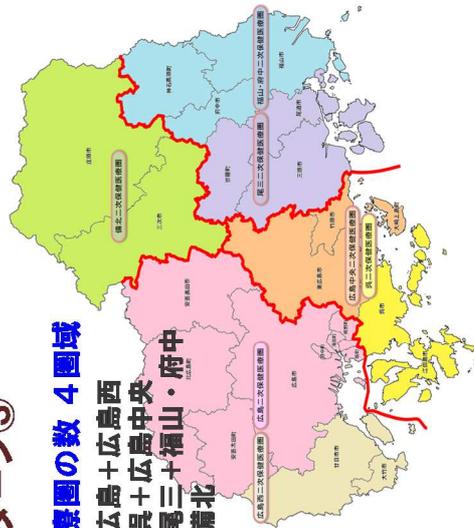
### 医療圏の数 7 圏域



## パターン③

### 医療圏の数 4 圏域

- 広島+広島西
- 呉+広島中央
- 尾山+福山・府中
- 備北



## パターン②

### 医療圏の数 3 圏域

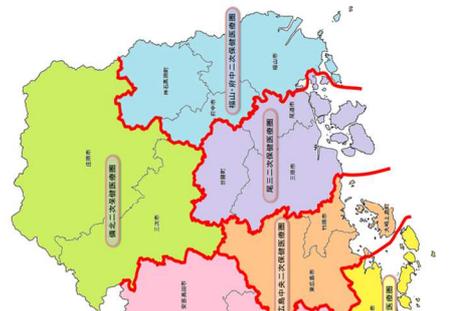
- 広島+広島西+呉+広島中央
- 尾山+福山・府中
- 備北



## パターン④

### 医療圏の数 6 圏域

- 広島+広島西
- 呉
- 広島中央
- 尾山
- 福山
- 備北



# 二次保健医療圏シミュレーションの比較

第1回広島県地域保健対策協議会  
保健医療基本問題検討委員会

資料  
1

令和4年9月1日

見直しの視点	パターン1 現行(7医療圏)	パターン2 3医療圏に統合	パターン3 4医療圏に統合	パターン4 広島圏域と 広島西圏域を統合
一般の入院 医療をなるべく身近な地域で対応できる範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>二次医療圏内で一般の入院医療は概ね完結している。</li> <li>流入率・流出率ともに前回策定時からほとんど変化はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>二次医療圏を広域化することで、圏域内の完結率は上昇する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パターン②より圏域内完結率は下がるものの、現行の二次医療圏よりは上昇する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広島圏域と広島西圏域を統合することで、圏域内の完結率は上昇する。</li> </ul>
拠点病院で医療需要をカバーできる範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>県民の9割以上は、二次医療圏内の拠点病院に60分以内アクセスできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現行二次医療圏よりアクセスに時間を要する県民が増加するものの、8割以上が二次医療圏内の拠点病院に60分以内アクセスできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現行二次医療圏よりアクセスに時間を要する県民が増加するものの、8割以上が二次医療圏内の拠点病院に60分以内アクセスできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>統合によって拠点病院へのアクセスには大きな変化は生じない。</li> </ul>

## 二次保健医療圏の見直し検討に係る圏域からの意見

圏域	意 見
広島	<p>広島圏域地域保健対策協議会としては、当面は現行どおりのパターン1が妥当だと考える。</p> <p>なお、今後、第9次保健医療計画策定時には、各圏域の人口動態や年齢構成、隣接する地域との患者の流入出、病院の統合の影響なども踏まえて広島圏域と広島西圏域を統合するなど、圏域の見直しの検討が必要である。</p>
広島西	<p>流出については、一部の疾病分野で流出が多いところはあるが、医療機関の住み分けが進んでいる状態であることから、圏域の議論とは分けて考える必要がある。現時点で圏域を変更する必要性がないため、パターン1が妥当。</p>
呉	<p>現時点では、現行の医療圏が、圏域の人口、受療動向、アクセス時間を考慮すると、バランスがとれていると考えられることから、第8次保健医療計画では、現行の医療圏の継続が妥当である。</p> <p>ただし、今後の人口や受療動向の状況から、第8次保健医療計画の中間見直しにおいて、見直し検討を要することもあり得る。</p> <p>なお、第9次保健医療計画策定時には、国の見直しの3つの基準のうち、人口が20万人未満に該当すると予測されるため、圏域の統合も含めた見直しの検討が必要となる。その際、DXの進歩等も含めた受療動向の状況から、市町にとらわれない生活に密着した医療圏や、サブ医療圏の設定も視野に入れた検討が求められる。</p>
広島中央	<p>次期計画においても、現行の二次保健医療圏が妥当である。</p>
尾三	<p>尾三圏域において、基幹病院への受療動向では、圏域内患者が大半を占めている。また、当圏域としては国の見直し基準に該当しておらず、前回計画策定時から大きな変化もない。一般の入院医療は現行の二次保健医療圏内で概ね完結しており、合理性があるため、次期計画においては現行の圏域設定が適正である。</p> <p>なお、将来的には地域の実情も踏まえ、二次保健医療圏の見直し検討を始める時期を考える必要がある。</p>
福山・府中	<p>受療動向データから、圏域内での受療がほとんどを占めており、流入・流出率とも7つの医療圏では最も低く、圏域内完結性が最も高いため、他の圏域と統合するメリットは見当たらない。通常の状態であれば特に大きな問題もなく、現時点ではパターン1が妥当である。ただし、災害時や新興感染症対応など有事の際は、圏域を越えた対応を準備しておく必要があり、将来的には、人口減や医療資源確保の視点から尾三圏域との統合の検討が必要である。</p>
備北	<p>なし</p>